

高 山 彦 九 郎

した、此折り嘉膳は地だんだ踏んで残念に思ひました、仕方がない、代官所より久留米侯に此の事を申上げますと、豫て茲に永らく返留して居ります高山の事は、能く御存知でございませぬから、夫れが切腹して相果てた事の事でありませぬから、不憫に思召し、其の死骸は久留米の城下の下寺町、遍照院といふ寺院内へ葬つて遣はす事になりました、其の上高山の所持なす品々は、残らず纏めまして、之れを上州の新田郡細谷の實家へ送つて遣る事になりました、此の事が世上の評判となりまして、彼れの、石碑を建ててから後、何者とも知れず、其の墓の前へ来て、腹を切つて死んで居る人が出来ました、此時驚いてもたが段々其の人を調べて見ると、是れは浪人者でございまして、高山とは至つて意氣の合つた人間でございませぬ、唐崎常陸介と云ふ人であつたさうで、是れは全く彦九郎の精神を慕ひ、死後を追ふたものと見えます、久留米侯に於ても、其の片傍にまた彼

高 山 彦 九 郎

れの死骸を葬つて標の石を建ててお遣りなさいましたが、今以ちまして筑後の久留米の遍照院には墓が残つてあるさうでございませぬ、されば此人も腹さへ切なかつたら此様な事もありませぬ、首尾好う江戸の松平越中守を取押へ、五ヶ條の難問の申開きをなされた、さすれば中山様はお勝ちあそばした立派なものだ、夫れに公儀へ遠慮の爲めとあつて、自ら進んで百日の閉門をされた事件があります、夫等々の事を思つて見ると、何うも我れ一人何程氣眼つても、尙だ時期の至らぬ事であるからと云ふので、夫等の事を氣にして俄かに切腹を仕たのであらうとも、傳へる者がありません、實に高山は惜しいものであるといふ世間の噂でございませぬ、其のうち追々高山の考への如く、世の中が一變して参つたのでございませぬ、維新後王政復古の御代になりまして、明治二年

高 山 彦 九 郎

八九一

己巳十二月に至り、太政官より、かしこくも高山彦九郎へ御沙汰書が下りました

高山彦九郎

草莽一介之身ヲ以テ勤王之大義ヲ唱へ天下ヲ跋渉シ有志ノ徒ヲ鼓舞ス世ノ罔極ニ遭ヒ自及シテ死ス其風ヲ聞テ興起ス者不少其氣節深ク御追賞被爲在依之里門ニ旌表シ子孫へ三人扶持下賜候事

高 山 彦 九 郎

九九一

細谷といふ田舎を出まして、士民の一人であります、武士もも及ばぬ立派な心掛けと言ふところから、段々噂が高く相成りました、其後明治七年十月二十三日宮中にて御歌の御月次會といふものをお催しになりました、其時「高山正之」と云ふ御衆題が下りました、此折り恐れ多くも皇后陛下の御歌に

斯かる有難き御歌を賜はつたのでございます、是れ世の常の人に出ましたら、何の位、御上の役に立たた人であつたか分りませぬ、些と時期が早く、斯やうな次第で謂は、憤死を致したの

勤王名士高山彦九郎の實傳は、之れを以て大尾と相成ります

御退屈さき。

高 山 彦 九 郎

勤王名 高山彦九郎 後編終

明治四十四年十二月十日印刷  
明治四十四年十二月十五日發行

口演者 神田伯龍

大阪市東區北久太郎町四丁目五十一番地

發行者 岡本三郎

大阪中西區北堀江下通一丁目六番地

印刷者 南谷新七

高山彦九郎  
後編  
不許複製

發行所 大阪市東區北久太郎町四丁目心齋橋筋東入 岡本偉業館

電話東二一八七番 振替大阪二九九一番

# 出版協會組合



名倉昭文館  
博多成象堂  
岡本增進堂  
中川玉成堂  
積善館  
島ノ内同盟館  
殿々堂  
柏原奎文堂

立川文明堂  
井上一書堂  
此村欽英堂  
矢島誠進堂  
松本金華堂  
樋口隆文館  
岡本偉業館



目書説小談講行發館業偉本岡

日丁四町耶太久北區東阪大

(其ノ二)

Table of book titles and authors for the second volume, including titles like '水戸黄門漫遊記' and '奴の原ト'.

目書説小談講行發館業偉本岡

日丁四町耶太久北區東阪大

(其ノ三)

Table of book titles and authors for the third volume, including titles like '稲葉武勇傳' and '後日談'.



大阪田舎偉業館發行

田舎偉業館

